

サツマイモ基腐病説明会 質疑応答内容

令和7年12月11日

Q. 基腐病に感染する品種はシルクスイートだけなのか。

A. べにはるか、ベニアズマ等他の品種でも確認されている。

Q. 基腐病が発生したほ場の生育中の様子は。

A. 生育中は問題なかったと聞いている。収穫中や収穫後に発生が確認された。

Q. 防疫措置に要する消毒費はどこが負担したのか。

A. 県が負担した。

Q. 発生ほ場の半径500mを防疫対象とした根拠とは。

A. 土や水によって感染が広がるため、定めた範囲である。

Q. トラクターで移動すると土も移動して感染が拡大するのでは。

A. トラクターの移動状況を聞き取りし、今後移動した圃場の状況を注意して確認していく。

Q. 保管している芋同士で感染が広がる可能性は。

A. 感染している芋に接している場合は、感染が広がる可能性はある。

また、接してなくても、コンテナ等で保管し、下の芋に汁が滴った場合は、感染することも考えられる。

湿気が多い米袋で保管している場合、感染している芋があると、米袋全体の芋の感染する可能性も考えられるが、貯蔵庫で保管している場合、貯蔵庫全体が感染したという事例は聞いたことはない。

Q. 基腐病の病原菌はどこから侵入してくるのか。

A. 苗や種芋であることが考えられるが、残さや土がついたコンテナのやり取りでも侵入することが考えられる。

Q. 生産者が基腐病対策として予防策を講じた際の保障はないのか。

A. 県で調整をしているため、もうしばらくお待ちいただきたい。

Q. 防疫作業の土壤消毒とはどのようなものか。また、薬剤は何を使用したか。

A. バスマミドという粉剤を使用した。こちらを撒いてトラクターで耕運し、鎮圧またはビニールによる被覆を行った。ほ場の状況に合わせて実施したため、発生ほ場ではないほ場にもビニールを被覆したケースもある。

Q. 防疫作業後、残さを焼却処分したことだが、量はどの程度か。また、埋立処分もしたのか。

A. 埋立処分はしていない。くず芋などの残さを合計 32 t 処分した。

Q. 対象ほ場が 26ha なら、もっと処分量が大きいのでは。発生ほ場から収穫した芋のうち、加工できるものは加工しているということか。

A. お見込みのとおりである。

Q. ひたちなか市で広範囲に感染が拡大する場合も想定できるのでは。

A. 各生産者が対策を講じれば、爆発的に感染が拡大することは考えにくい。

Q. 鹿児島県における現在の基腐病の状況は。

A. 鹿児島県の芋はデンプン用の芋が多く、土壤消毒等は行っていない場合が多かったことから、感染が拡大したと考えられる。現在は、消毒等の防疫をおこなっているため、感染は収まっているものの、根絶はしていない。

Q. 緊急事態宣言が解除されたが、県知事はひたちなか市のサツマイモ・ほしいもが安全だと公言する予定はあるのか。

A. 県では HP や X、ラジオ等で周知している。県知事による周知については、現在未定であるため、ご意見として預からせていただく。

市では、正しい知識を伝えるという観点から、ほしいも特設ページを開設し、基腐病について情報を発信している。

Q. 防疫作業の効果については、除菌・滅菌・殺菌のうちどれか。

A. 殺菌である。完全に滅菌しているとは言えない。

Q. 土壤に糸状菌があるかないかの検査方法はあるのか。

A. 農研機構が PCR で判別する方法を開発しておりホームページで公表されている。あくまでサンプルで採取した土を検査するため、ほ場全体の土を検査することは難しい。参考程度になる。

Q. 基腐病の原因となる糸状菌は、どこにでも存在するのか。

A. 感染するのはサツマイモ等のヒルガオ科の植物だけであり、基腐病の原因となる糸状菌は、どこにでも存在するものではない。

Q. 生育途中に基腐病を発見したらどうしたらよいか。感染が確認されたほ場の芋はすべて使えないのか。

A. ほ場全体か、感染した芋の周囲のみが使えなくなるかは、その時の状況によって判断となる。

Q. 今回の基腐病発生について、1例目と2例目はどのようにして異常を発見されたのか。

A. 1例目は生産者が収穫途中に気づいたものである。2例目は、防除作業中に発見したものの。

Q. 茨城県総合防除計画には、発生ほ場は2年間サツマイモの作付ができないとされているが、何をもって2年としているのか。

A. ヒルガオ科を作付しない場合に、発生のリスクが減少する期間を設定している。発生のリスクを最小限にしてもらう意で、発生の可能性については、何とも言えない。

Q. 2年間作付け出来なくなった場合の支援はないのか？

A. ヒルガオ科以外の作物の作付けは可能。作付け作物の栽培技術の面で助言等の支援を行いたい。

Q. 2年経過後にサツマイモを再度作付しても大丈夫というのは危ないので。防除を続けましょうというスタンスの方が良いのでは。

A. あくまでも菌密度が減少するものであるため、絶対に大丈夫と約束できるものではない。その後も徹底的な対策をした上での作付をお願いすることになる。

Q. 基腐病の発生が確認された方の土壤や苗の消毒の状況を教えてほしい。

A. いずれの方も、土壤及び苗の消毒は行っていたと聞いている。

Q. 消毒等を行ったほ場に新たな病原菌が入り込むと、爆発的に感染が広がらないのか。

A. このような事例の場合、新たな病原菌が爆発的に増えることも考えられるが、生育期間中の殺菌剤の散布で対応可能だと考えられる。